



平成26年度「100人委員会」開催



- 10年目を迎えた乾杯運動の発展を期し、講演と意見交換の会
- 田崎真也氏が「日本酒と食の相性」をテーマに講演

平成26年度の「100人委員会」(石毛直道代表)が、5月13日の午後、東京千代田の如水会館で開催されました(第9回)。今回は、ソムリエの田崎真也氏(100人委員)を講師に迎え「日本酒と食の相性」と題する講演を聴講したほか、「日本酒で乾杯推進運動」への取り組み方などをめぐって意見交換。会議終了後には恒例の「日本酒文化を味わう会」も開かれ、10年の節目を迎えた乾杯運動のさらなる発展を祈って、懇親のひとつときを楽しみました。



田崎真也氏



日本酒と春の佳肴を囲んで、懇親の宴



「日本酒文化を味わう会」の冒頭、日本酒で乾杯！
発声は石毛代表。

★ 出席された方々

(50音順)



秋山 裕一氏
(公財)日本醸造協会顧問



石川 雄章氏
(公財)日本醸造協会
代表理事・会長



石毛 直道氏
国立民族学博物館
名誉教授



奥村 彪生氏
伝承料理研究家



加来 耕三氏
歴史家・作家



神崎 宣武氏
民俗学者



木村 修一氏
東北大学名誉教授



兒玉 徹氏
東京大学名誉教授
日本醸造学会会長



こばた てるみ氏
スポーツ栄養士
日本酒スタイリスト



近藤 誠一氏
近藤文化・外交研究所代表



阪田 美枝氏
『日本の酒造り唄』著者
2千年紀和紙委員会
事務局長



篠原 成行氏
日本酒造組合中央会会長



島田 律子氏
タレント
日本酒スタイリスト



滝澤 行雄氏
秋田大学名誉教授



田崎 真也氏
ソムリエ



谷本 亙氏
まち&むら研究所代表



玉木 武氏
アルコール健康医学協会
理事長



手島 麻記子氏
テーブルコーディネーター
日本酒スタイリスト



浜 美枝氏
女優



伏木 亨氏
京都大学大学院
農学研究科教授



山本 祥一朗氏
評論家

※ 加来耕三氏、こばたてるみ氏、近藤誠一氏は、
「日本酒文化を味わう会」から出席。



多彩な活動を続ける乾杯運動の応援団。新たに5氏がメンバーに

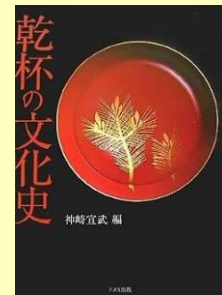


「日本文化と日本酒文化のルネッサンス」を旗印に、清酒業界が総力を挙げて取り組む「日本酒で乾杯運動」。平成16年6月のスタート以降、「日本酒で乾杯推進会議運営委員会」(西村隆治運営委員長)を中心に、「日本酒で乾杯」の普及、定着を通じた日本文化の再評価へ向け、10年にわたって着実な活動を展開してきました。近年、京都市をはじめ全国の自治体で進む「乾杯条例」制定の動きは、その大きな成果のひとつといえます。

・メンバー数92名(平成26年5月1日現在)

100人委員会は学術、芸能、スポーツなど各界の有志が結集して平成18年に発足した乾杯運動の応援団。発足以来、乾杯の歴史を研究した『乾杯の文化史』の編纂・発行をはじめ、年1回の会合と推進会議HPへのコラム寄稿など幅広い支援活動を展開しています。現在のメンバー数は計92名。今年度に入り近藤誠一(近藤文化・外交研究所代表)、鈴木和也(〈公社〉日本青年会議所会頭)、野村万蔵(狂言師、和泉流野村万蔵家当主)、三林京子(女優・落語家)、こばたてるみ(スポーツ栄養士・日本酒スタイリスト)の5氏が新たに委員に就任しています。

今回の会合には、石毛直道代表らメンバー20名のほか、日本酒造組合中央会から篠原会長、岡本副会長、西村運営委員長らが出席。講演と意見交換などを通じて相互の交流を深めました。



● 人々の絆を強める酒の役割を広げよう(石毛代表の挨拶)



石毛代表

開会の挨拶を行った石毛代表は、「酒は本来コミュニティの人と人、人と神様を結びつける媒体の役割があった。最近個食ということが言われるが、ともに飲み、食べるという連帯感が若者の間で少なくなる傾向が強い。人々の絆を強める酒の役割を、乾杯運動の中で広げていく必要がある。地道でも、身近なところから、そういう努力をしていくことが大切だ」と述べました。



西村運営委員長

「日本酒で乾杯推進会議」の活動報告を行った西村運営委員長は、会議の会員数の状況(5月1日現在、3万5482人)、乾杯条例の制定状況(計61自治体、うち日本酒関係27)、冊子『日本酒と日本文化』英語版/日本語版の発刊などを説明した上で、26年度は、①会員数の拡大(目標5万人)、②総会・フォーラム&パーティの開催(10月1日、明治記念館。テーマは「和食と日本酒」)、③地方大会の開催(10月11日、秋田市)などに取り組む計画であることを報告しました。



● 和食の世界的広がりを機に、日本酒と食の相性を見直せー田崎氏の講演概要



田崎真也氏プロフィール

1958年東京生まれ。77年渡仏しソムリエ修業を積む。83年第3回全国ソムリエ最高技術賞コンクールで優勝。95年第8回世界最優秀ソムリエコンクールで日本人初の優勝を果たし、一躍時代の寵児に。2010年から国際ソムリエ協会会長に就任し、現在2期目を務める。

平成20年度「卓越した技能者(現代の名工)」受賞、平成23年度春の紫綬褒章受章。『接待の一流 おもてなしは技術です』(光文社新書)など著書も多い。(株)サントリー代表取締役会長。

55カ国が参加する世界ソムリエ協会の会長を務めるなど、国際的な活躍を続ける田崎真也氏。今回の田崎氏の講演「日本酒と食の相性」は、その豊富な経験の裏づけから、世界の中の日本酒、和食と日本酒の可能性などをグローバルな視野で論じたもの。

田崎氏はまず、ワインソムリエとして活動する中で日本酒への関心を高めていった経緯、日本酒造組合中央会の相性研究に携わって4タイプ分類を開発した経験などに触れた上で、「当時は日本酒を勉強しているソムリエはごく少なかったが、最近はソムリエの教科書も日本酒の記述が充実してきており、ワインだけ扱っていいという時代ではなくなった。世界のソムリエの中にも日本酒の知識が普及している」と述べ、日本酒に対する意識が内外で大きく変化しつつある現状を指摘。

そうした中で「出汁を使った日本の食文化に世界の料理人が興味を持っており、日本酒の可能性も大きく広がっている」として、「和食との相性は醤油との相性ではなく、刺身には何が合うか、ヒラメには？トロには？赤身には？といった高い次元で考えていくことが、和食と酒を世界に広げていく上で重要」「ヨーロッパでは、肉との相性からみりと古酒への関心が非常に強いが、トリュフや卵黄料理には日本酒の甘みとうまみ、軽い酸味が合うし、バター、チーズ、クリーム料理にも吟醸系の日本酒は大変相性がいい」など、和洋食

双方との相性について具体的な例を挙げて説明。最後に「和食の世界的広がりという機会を捉えて、日本酒と食の相性を再度見直していくことが必要だ」との考えを示しました。



● 活発に意見交換。日本酒の放射線防護効果の報告も

続いて、日本酒で乾杯推進会議運営委員会の南部隆保委員を司会に、今後の運動の進め方をめぐって意見交換が行われました。

委員の間からは、「日本酒は酒造り唄で微妙な酒造工程を調節してきたが、歌える人がだんだん少なくなってきた。こうした酒造に関わる文化にも、運動の中でぜひ目を向けてほしい」(阪田美枝氏)、「乾杯の器や運動のロゴマークを公募するといった活動も効果的だと思う」(兒玉徹氏)などの提案が出されたほか、うまみの研究



南部運営委員



左上から時計回りに、伏木、阪田、滝澤、兒玉の各氏

で今年春の紫綬褒章を受章した伏木亨氏は「日本酒を飲むと心がきりっとする。日本酒には他の酒では得がたい精神性がある。この伝統的な感覚を大事にしなが、一方では海外から入ってくる新しい食文化にどう対応させていくか。このふたつが乾杯運動の大きな方向だと思う」と発言。

また、滝澤行雄氏は昨年の会合で発表し注目を集めた日本酒の放射線防護効果に関する研究が、『日本酒のX線照射マウスに対する放射線防護効果』(秋田大学研究グループ)として正式に学術

誌に掲載されたことを報告(RADIOISOTOPES 誌、63 巻 1 号)。「エタノール 10%の純米酒をマウスに投与して明らかな防護効果を確認した。エタノールだけ、あるいはビールの投与より、日本酒は効果が高い。これはアミノ酸など 120 種以上の栄養成分を含む日本酒ならではの効果と考えられるが、同じ日本酒でもアミノ酸総量が多い純米酒(普通酒の約 2 倍)のほうがより高い効果を有する」と、改めて研究成果のポイントを説明し、日本酒の新たな機能性に期待を示しました。



● 「10 年間、いい運動をしてきた。ご協力に感謝する」(篠原会長)



会議の最後に、中央会を代表して篠原会長が閉会の挨拶。「西洋の油性食文化の影響で子どもの糖尿病などが増えている。こうした日本人に合わない食生活の見直しも含めて乾杯運動を続けてきたが、この 10 年で、乾杯条例の制定が進み、和食がユネスコの無形文化遺産に登録されるなど、着実に成果が上がっており、いい運動をしてきたと思う。100 人委員各位のご協力のおかげであり、改めてお礼を申し上げます」と謝意を表しました。



会場の模様。
右上は中締め挨拶をする伏木氏



・ 和やかに「日本酒文化を味わう会」

100 人委員会終了後に開かれた「日本酒文化を味わう会」では、はじめに石毛代表の発声で「日本酒で乾杯！」の杯を掲げた後(1 頁写真)、和やかな歓談のひと時。会場には国税庁の稲垣長官、上羅審議官らも姿を見せ、和洋の料理を囲み、各地の日本酒に、様々な飲み方を楽しみながら、最後は、伏木氏が改めて日本酒と和食の広がりを願うスピーチを行って宴を締めくくりました(次頁に乾杯の風景)。



「日本酒文化を味わう会」
2014.5.13
乾杯の風景

